

2025 年 11 月 23 日午前 10 時 30 分
聖霊降臨節第 25 主日 収穫感謝CS 合同礼拝
司会 村上幸祐 畠中美桜 長谷川菜々子
奏楽 木戸恵美子

讃美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、
お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあいさつ)
前 奏
招きのことば 第 1 コリント 3:6-7
讃美歌 こども 3 「うれしいあさよ」 一 同
交読詩編 100(こどもさんびか、P.207)

祈 り 司会者
《関東教区お祈りカレンダー》
聖学院教会 埼玉新生教会 埼大通り教会
(主の祈り)

讃美歌 こども 102 「わたしたちのたべるもの」 一 同

聖 書 新約:エフェソ 2:14-16(P.354)

メッセージ『私たちの世界の隅々まで』
祈 り 川上 盾 牧師

讃美歌 こども 34 「キリストのへいむ」 一 同

< わかちあいのとき(こども 22「キリストがわけられた」>

献 金 一 同
(献金感謝の祈り)

信仰告白(家族礼拝のための信仰告白) 一 同

頌 栄 こども 34 「グロリア、グロリア、グロリア」
祝 祷 川上 盾 牧師
後 奏
報告・紹介

<招きのことば> 第 1 コリント 3: 6-7
わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、
成長させてくださったのは神です。ですから、
大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、
成長させてくださる神です。

《11 月礼拝当番》 徳島恵子 深町 穰
長嶋美智子 伊藤愛子
橋本洋子 井上ティナ

《今週の集会・行事》

- ◎ 本日礼拝後 豚汁交流会
- ◎ 本日午後 地区大会歌の練習
- ◎ 24 日(月) 群馬地区大会 於・新島学園中高
- ◎ 25 日(火) 牧師、前橋保育園面談
- ◎ 28 日(金) 10:00 会堂清掃 C 組
- ◎ 28 日(金) 牧師、共愛学園短大チャペル

《次週の主日》

◎主日礼拝 10:30 (アドヴェントに入る)
メッセージ『真実を語り続ける』
聖書:旧約:イザヤ 51:4-11 (P. 1146)
新約:マルコ 13:21-23 (P.89)
讃美歌 242(1), 231, 229(1-5), 291, 229(6)
交読詩編 82:1-8(P.95/91)

司会:齋藤真理子 奏楽:徳江由利
◎ フェローシップの会 岡安茂能さん
◎ 聖歌隊練習

《予 告》

- ◎ 聖研祈禱会 12/3(水)10:30 & 19:30
- ◎ パイプオルガン・コンサート 12/6(土) 13:30
演奏:表見 聖さん 入場 1,000 円
- ◎ 12 月定例役員会 12/7(日)

《報 告》

◎ 収穫感謝CS 合同礼拝

今年も天の恵み・人の働きによって収穫の実りが与えられたことを感謝しましょう。「わかちあいのとき」でいただくおにぎりは、伊藤農園で採れた新米です。礼拝後は、CS のこどもたちが作った豚汁を食べながら交流の時を過ごします。12:30 には終了しますので、どうぞお残り下さい。

◎ 次週よりアドヴェントに入ります

キャンドルに 1 本ずつ火を灯してイエス・キリストの誕生を迎える時を過ごします。クリスマス行事の案内チラシを作りましたので、近しい人をお誘い下さい。礼拝後はフェローシップの会。今回は岡安茂能さんのお話です。

◎ パイプオルガンコンサート(12/6 土 13:30)

表見 聖さん(三・一教会牧師)を迎えて行ないます。クリスマスにちなんだ選曲も加えて下さっています。当日清算チケット(¥1,000、小学生以下無料)および案内チラシがありますので、どうぞご利用下さい。

◎ クリスマス聖歌隊

次週フェローシップの会終了後、第 1 回の練習を始めます。教会ホームページ「聖歌隊 2025」をクリックすると、課題曲の楽譜・音源がありますので、準備をしておいて下さい。

◎ 2026 年 1 月以降の礼拝司会当番(揭示板)

それぞれの担当の可否をご確認下さり、修正をして下さい。新たな方も募集しています！

◎ 奥田知志牧師 講演会(新島学園短大)

12 月 2 日(火)午前 10:40-11:50、木造校舎「新島の森」で開催。奥田さんは北九州市の八幡バプテスト教会牧師で、ホームレス・困窮者の支援 NPO「抱樸」の理事長でもあられます。参加費は無料ですが、駐車場の関係で参加希望の方は臂奈津恵牧師(渋川教会・新島短大)にお知らせ下さいとのこと。詳しくは揭示板をご覧ください。

《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献 金
主 日 礼 拝	49	18	27,675
婦人会例会	18		

《メッセージ》「うめきを聞かれる神」
出エジプト 6:2-9、ヘブライ 11:23-29(11 月 16 日)
▼日本の神社の神々には、おのおのその得意分野がある。縁結び・商売繁盛・学業成就・厄除け...それぞれの「ご利益」が謳われ、それを求めて参拝者が集まる。▼これに対して聖書の示す神さまはそのような専門分野は基本的にない。聖書の神様は天地の作り主であり、命を作り養われる神である。また人間の願望にこたえる神さまではなく、神の願いを人間が尋ね求めることこそ信仰とされる。「ご利益信仰」は「偶像崇拜」として否定される。▼しかし「それでも敢えて、聖書の神の特色は何か」と聞かれたら、「人間の痛み苦しみを顧みられる神」と答えようと思う。聖書には嘆き苦しむイスラエルの民を神が顧み、救われた物語がいくつも記される。その一つがモーセによる奴隷からの解放・出エジプトの物語である。▼その昔イスラエルの民はエジプトで奴隷として苦役を負わされていた。その苦しみの中から民が祈ると、神はモーセを遣わしてこれを救われた。超越しの出来事から「海の奇跡」に至るクライマックス、それはイスラエルの民(ユダヤ人)の信仰の原点である。▼その救いの物語の出発点ともいえるのが今日の箇所である。「私(神)はまた、奴隷となっているイスラエルの民のうめきを聞いた」(出エ 6:2)と記される。民の苦しみの中からうめく声に耳を傾けられる神...そこから出エジプトの壮大な物語が始まった。▼新約・ヘブライ書では、遣わされたモーセに関する記述が示される。王女の子として育ちながら、奴隷の苦しみを味わう同胞たちを思い、「はかない楽しみより、神の民として虐待されることを選んだ」とある。それこそまさに、うめきを聞かれる神に従う信仰の歩みである。そしてそのモーセの姿を、十字架にかけられたイエス・キリストと重ね合わせるのである。▼このあとヘブライ書は神のなされた救いの業を列挙する。「私たちの信じる神は、民のうめきに対し具体的・奇跡的な救いを届けて下さった」と。▼へそ曲がり人間は、ついこんな事を考えてしまう。「確かにエジプトの苦しみに対して神は奇跡的に救われただろう。しかしいつも救ってくれたフケではない」。例えばアウシュビッツ。600 万人もの虐殺の時に神はどこにおられたのか。現在のガザ地区への暴虐に対して、神は何をしておられるのか、と。▼この問いに対して、明確な答えを見つけるのは難しい。しかしそれでも聖書から示される一つのメッセージがあると思う。「神は苦しむ民のなげきを、決して見過ごしにされない。きっと聞いていて下さる」と。うめきを聞いて、それで何をしてくれるのか...それは分からない。しかし少なくとも、苦しみ・うめきを与える側は決して立たれない、うめきを上げる人の側に立っていて下さるということだ。▼そのような神を信じる人々の中から、その現実を何とか作り変えようとする人が現れ、導かれ、養われてゆく。そのような形で「神の御心に相応しい世界」が実現へと向かってゆくのである。